

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

魔炎遊戯



注意

- ※この作品には
火責め・炭化・欠損・精神攻撃などの
暴力的表現が非常に多く含まれます。
これらの表現に対して嫌悪感を覚える方は
絶対に購入・閲覧しないでください。
- ※本番シーンは一切ありません。
- ※購入される方はこの作品に理解のない方や
嫌悪感を覚える方の目に触れないよう
取り扱いには十分お気をつけください。
- ※転売・無断複製・無断転載などの行為は
お止めください。
特に、合意を得ていない不特定多数の方の目に
簡単に触れられる状態となる
インターネット上への無断アップロードは
絶対にお止めください。
- ※当サークルが案内している販売ルート以外で
本作品を購入・閲覧された方のクレームは
一切受け付けません。
- ※この作品はフィクションです。
実際の事件・人物・団体等とは一切関係ありません。
空想と現実の区別がつく成人のみ
本作品をお楽しみください。



ルルちゃん
お願いたいだ

アミちゃんの
猫が木に登って
降がらなくなっ
たんだ

お姉ちゃん
助けてあげて



ごめんね
この子達の間に
面倒見ても
らえる？

わあ！
ルルちゃん
来たあ！

あそぼー！

このままだと
家事もなんにも
出来なくて……



うむっ



ルルちゃん



ルルちゃん



私に任せろ！

だっ

頑張れよ姉ちゃん！

おうとも！

私はルル！
このプレット村で
一番の勇者だ！

まあ勇者
といっても
私は勇者の
血筋なんか
別に引いて
いない……

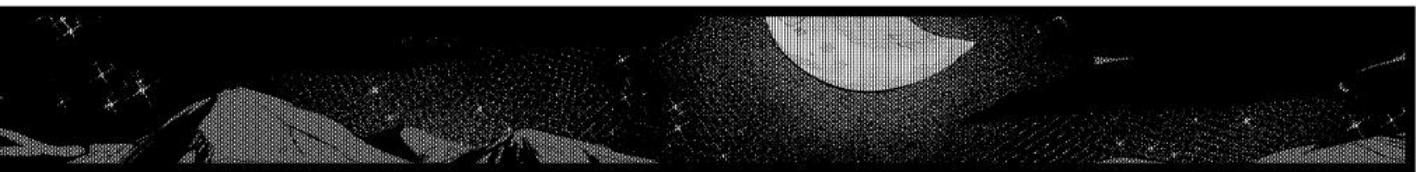
ただこの村に
伝わっている
伝説の勇者様
に憧れている
だけだし

装備も拾った
素材や投げた
さされてたもの
を組み合わせた
仮装のようなの
だけ……

きつと私でも
あの方のよう
な勇者になれ
るんだって
信じてるんだ
って



いっばい
修行を積み
いっばい
修行を積み
善行を積み
めば

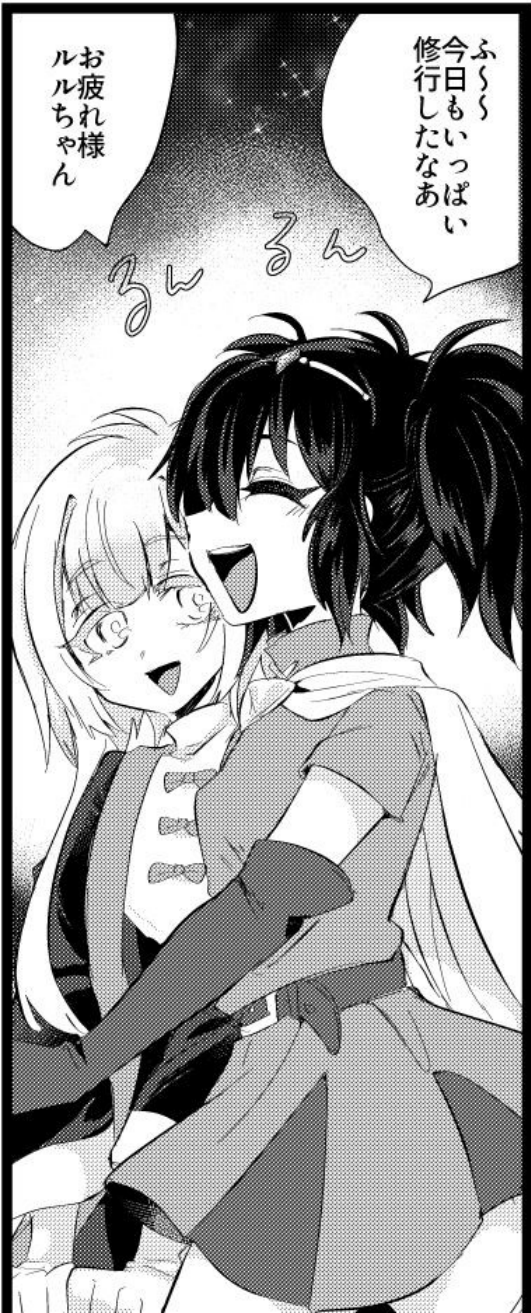


ありがとう
リル!

彼女はリル!
一番の友達
教会の司祭
の娘なんだ!

魔法を扱う
魔法で怪我
を治す
魔法で怪我
を治す
魔法で怪我
を治す

……本当の名前は
メレルなんだから
リルって呼ぶだけ
本当の姉妹みたい
呼んじやうんだよ
ね



ふらふら
今日もいっばい
修行したなあ

お疲れ様
リルちゃん



生まれた村が焼かれて
住む場所を失った
うちの家族は
プレッド村を
目指して
いたんだけど……

あと少しのところで
モンスターに襲われて
私だけを逃がして

身寄りがなくなつた私の
お世話をしてくれたのが
リルとその家族なんだ



どうして
姉妹かって……



リルのお母さんは
見つけてくれたし
大人として
大事なことを
くれたんだ！

だから私にとっては
リルは親友で……
姉妹でこの世で一番
守りたいものなんだ



……



今日もルちゃん
大活躍だったね！

ふふーん
このくらい
当然だよ！

勇者はみんなに
頼られるもの
だからね！



……うん
ルルちゃんに
隠し事したら
ダメだよね



あつ……
いや、その……

ねえリル
どうかしたの？
困り事とか？



……？



ーお願いが
あるの……

ルルちゃん
ごめんね……



お母さんを
助けて……！



近くに感じるのに
モンスターのものが
自然そのものが
想像以上に剥いてくる
牙を剥いてくる

禁忌の地と
言われいている
だけあって
道中は困難だった



回復や防御の
サボートな
しなくてくれな
半分の窟への道
なかつたと思
う着けのら



私達のお母さんのは
病気を治すため
万病を治すため
奇跡をとつみる
禁忌の地へ
炎の窟に向か
った

ーここが

グ
ク
リ

炎の洞窟
なんだね…！

うん！

あと少し
頑張ろうね！

いろいろと
大変だったけど
ここまで来れたね
ルルちゃん…！！

うん…

すごい…
私達本当に
辿り着けたんだ



どこにも
咲いてないよ



お花なんて



あはは〜

ごめん
私もつと
頑張るよ!

あわ

あまりにも
探し出しな
くちやった!?
怒

あわ

違うよ



私が
ルちゃんを
連れてくる
まで
この
ため
に
嘘
を
つく

お花の
話は



は……?

なに
に
言
っ
て
る
の
リ
ル……

ホル
ント
ちゃん
は
鈍
い
ね
え

かわいい



ルルちゃんを
おびき寄せる
ためのウソ♡



……
どうして

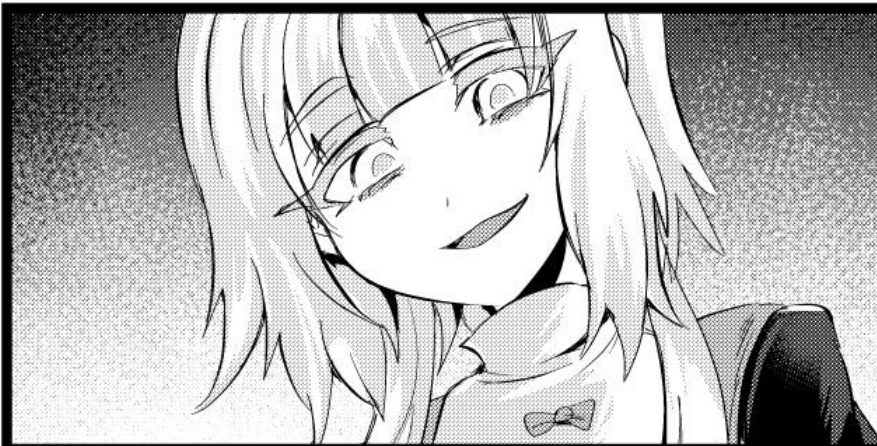
どうして
そんなこと……



そんなの
嘘だよ♪



えっ……？
えっ……？
お母……
お母さんの
病気は……？



……ねえ
ルルちゃん



ふっふっ
知ってるワケ
ないよね

だって私達が
意的に
教えた
んだもの
が

……っ

今から
あげるね



どうしてここが
禁忌の地と
知ってるのか

えっ……

この地だよね

我が神様が
偉大な御
おわすの

この神様は
炎を司っているね

命が炎にまかれて
燃え尽きるのを
見るのが大好きで……

り、リル……
なに言ってる……

だから表の人間は
神様のことを
邪神だ悪魔だと
誹りこの地を
禁忌の地としたの

ひどいこと
だよ

でもね
神様に帰属を誓い
忠誠を示した
敬虔な者には
愛と恵みと力を
お与えになる
素晴らしいお方で……

そうだよ！
ルルちゃんに
特別に見せて
あげるね

これが神様に
愛された印だよ

素敵でしょ？

なんだよ
それっ……

うん？

これがこの地と
村の真実だよ

ルルちゃん以外は
みんな知ってる

ルルちゃん以外は
愛されているんだよ

あれ？
そういえば

みりんちゃん
優しかったよね

なんで
だろうね？

や、やだっ
やめて！

鈍くいちゃんでも
気づいちゃった？

そうっ

ルルちゃんには
村の神様の
ために今日
育てる

やめてよ!!!



うむ

なかなか
心地よかに
召喚だつたぞ

こ、光栄で
ございます



あ、あああ
神様……！

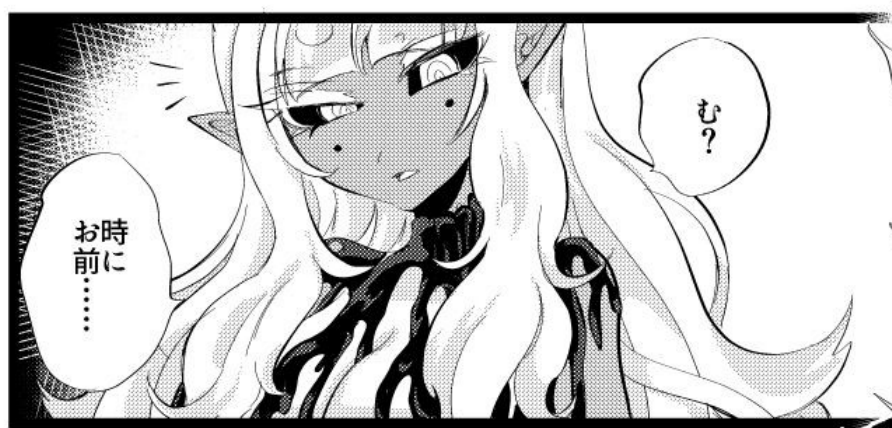
お会いできて
嬉しい限りです



リルが……
みんなが信仰する
神なのか……!?

あ、あれが……

あ……



む？

お前に……





贄をなるべく傷つけずにここまで連れてきて……

粗相無く我を呼び出すとは……

母並とはいかずともその歳にしては十分すぎる技だった

……!!



もしやシエリルの次代の司祭か

はいっシエリルの娘メリルです

ほお



さあこちらへおいで

はいっ



これは我が心をこめて祝福してあげねばな



存分に私の熱を味わうがいい



開口をて



んっ!!

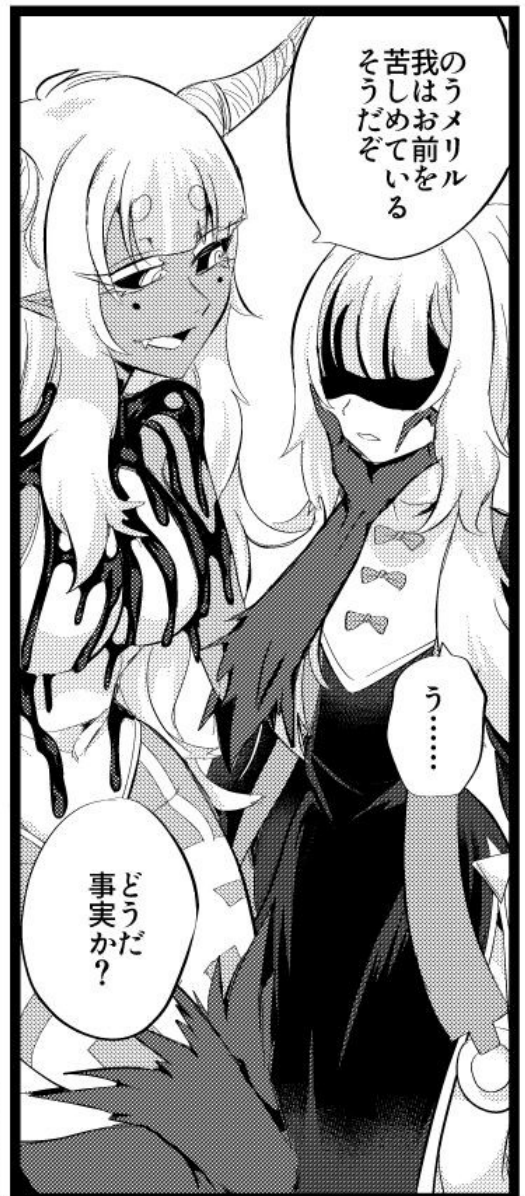
んっ♡

どうしたの
リル!?

やめてよ!!

リル!? な、なにが
起きてるの!?

リル!!





神様に
祝福を
あわせて♡♡

……!?

神様の舌で
灼かすの
と焼く
と一緒
で幸せ♡



ほら見て
ルルちゃん

タイツの上からでも
絶対わかるでしょ……♡



ぜ……
絶頂……?

意味分かん
ない……

か、神様に
言わされてる
んでしょ……?

おりの
つかは
ちやく
……?



最初の友達
から……
私達……
なつかしい
……?

リル……

リルは……
私……
家族……
……
親族……
……
……?



そんなこと
ないよ!

私がルルちゃんを
過ごした日々は
本当に楽しかったよ?

曲がった
ことが
大嫌いで

困ってる
人を見ると
助けられない
のは

そんな
ルルちゃん
は素敵で……

私はルルちゃん
が大好きだよ!



でも☆



ルルちゃんへの
友情よりも
友への愛の方が
深いだけなの

私はルルちゃん
に出会って
神様に
誓った

あなたへの
覚悟を
神様に
伝える
ために



分かって
くれた?

大好きな
ルルちゃん

そろそろ
お別れの
時間だよ

神様の
物になっ
て……
村のみんな

私の役に
立ってね

手足に火ッ…!?
は、離してえ!

アッハッハッハ!
お前は勇者に
なりなかつた
のだな

殊勝な
ことだ

……というこ
この服もこの
希望の支えも
だっただらう?

まさか……

決して叶わない
未来を想起
させるものなど
辛かるうて

我が炎で
消し去って
やろうじゃあ
ないか

いやああああ!!

ククク!!

違う!!

こんなのッ
嫌だよおお!!

そうだ!
大いに叫べ!
嘆き恐怖し
我を楽しませよ!

あたしっ
こんなの
望んでない!!

燃えてる!?

嫌あああ!!

ククク!
すい
の反
お応
を

消えてっ

あぐっ!!
熱い!!

は、
早く!!

あーあ
手袋も
ないね
立つて

ルちゃん
の準備は
ちゃん
として
たも
んね
えん

よからう
拘束を
解いて
やる
己の手
で
消し
て
み
せ
よ

はあっ

はあっ

なんでっ

消えてよお!!





あああああ!!
あたしの夢っ...!!

ククッ
こんな布一枚で
かように笑わせて
くれるとは

余興としては
面白いでは
ないか!

お前、
勇者なんぞより
道化の方が
向いてないか?



ああアアア
!

アハハハ!!
叫んじゃって
面白くない

惜しかったね
ルルちゃん

手で消すより
地面を転がれば
よかったんじゃないか?

あ、こんなに
錯乱してたら
思い当たらないか



違っう……
あああ……

あああ……っ

分不相応に
勇者を志していた
ホルちゃん……
ホント健気で哀れ

こんなに
錯乱しちゃって、



そんなところが
大好きだよ♡





クククッ
綺麗な脚が
真つ赤な炎に
飲まれたなあ
しまつたなあ



そら皮膚が焼ける
芳しい香り
漂い始めたぞ



ああ……
いなくなつた
いやにそそ
られるかな

助け……!!
ひぎッ……あああ

ククッ
ゴクッ
——そうだ
もつと火力を
あげてやろう

もつと淫靡な
芳香を放て



ギヤアアア!!

脚があツ!!
あづけ……!!
いいいい

やめてエえ!!



おあああつ……
アツ……苦しつ……

ぐあつ……!!
あ、ツ……!!



ちよつと!
もう気絶
したいの?



あああああツあ
脚のツ……
中までえ……ツ

おお
香るぞ
肉を焦がす
香りが!

猛るのお!

骨ツにいいツ
アアあああ……



ニゴツ
神様に
失礼でしょ?

ルルちゃん



痛みのない
世界に
逃げるなんて



どんなに痛くても
どんなに苦しくても
意識が失えない……!!

ずつと
覚醒したままに
なっちゃえ♡



いつも掛けてる
早起きの魔法……
あれを応用して……
ルルちゃんを迎えに
行つてあげる♪

いやああ
起きたく
ないいい
——ッ



痛いのッ

痛すぎる
のに

こんなに黒く
なってるのに



ゲホッ!!

気絶ううッ
できない
だすげでえええ

アッハッハッハッ!
粹なこと
はてなく
ではな
メリな
ル!!
かる

ああっ
光栄ですッ



ツツギイイッ

!!



クククッ
親友がお前のために
手を尽くしているのだ

ほうら……
皮膚の表面を
炎が這いながら
皮膚を犯すの
感じろ

痛いイイ!!
いだいイイ!!

助けてええ!!

やめでええ!

報いてやるのが
道義である?

自分の肉が
焼べられること
で
発生する臭いで
その肺を満たせ

無邪気に大地を
踏みしめていた
両足の指が
熱に溶かされ
癒着していくの
確かめろ

火っ、ひ、火ッ
誰か消してッ

りるっ
たすけてっ

死んじゃう!!

この火に
殺されるのおお

骨の表面まで
突き刺さった炎熱が
自分の体をモノへと
変えていくのを
為す術もなく感じろ

あ、あしがっ
う、うう
動かせないのおッ



ククク
辛そうだなあ？
だがまあ
このくらいで
よからう

脚の炎は
消してやろう



心配しないで
ルルちゃん

死にそうになつたら
何度でも何度でも
何度でも何度でも
蘇生させてあげるよ



火がッ……
ほんとに……

ぐヒッ……
ぐラッ……

おやあ
骨が丸裸に
なまってたな

……そうそう



!!



神様が満足するまで
絶対死なせないよ

嫌アああッ



座
ついで
がよい
寛ぐ

!?

手の拘束も
解いてやろう



だめ……



待つ……

それは



まさか脚ごと消えるとはなあ

ああああア!!

歩けなくなるだけで良かったのだが

...おっと

嫌アああああア!!

ふふっ
かように震えて
可哀想に



あああつ...



あああ...
ウソ、ウソウソうそ

どうして?
どうして?...
あたし、ああ



たぐさん
怖がらせて
しまったなあ

クククッ……

ア……
そんな……

でも大丈夫……
ここまでくれば
最早痛みすら
感じなくなるはず



—だから

こんな風に
断面を
爪で撫でも
平気というわけだ

ひいっ!!



ククッ
撫でるとびに
お前の体が
崩れていくぞ

おやあ?
どうしたんだい
身体が跳ねている
じゃないか

ほっ
骨を伝って
感触があつて

ひぎっいいい
撫でるのえ!!
やめてえ!!



お前が
知りたくなくても
我が与えてやる

せつかくだ
未知の感覚を
存分に楽しむ



いやあああ
気持ち悪い

脳が拒絶
してるのお!!

ははは！
振動はは！
伝わるワケか！

こんな感覚
知りたくない!!



!?

— そうだな
例えば...



え...

このまま
目を焼かれて
みるとか...





あゝルルちゃん
目が真っ赤♪

ククッ
大声を上げて
喜びおっけて

そんなに
気に入って
くれるとは
我も嬉しいぞ

こっちの目は
もう使えない
物に
けど

燃える火のようで
すっごく可愛いよ



自分の「中身」が
焼けるところを
日焼けてもらいたい
のでなあ



そうだと
とっても美しいぞ

もう片方の目も
舐って焼いて
あげたいが



火力は弱めにしてやるからな

皮膚が焼ける程度の熱さに留めてやるさ



まずはその邪魔な服を取っ払うとしようか

ひいひい!!



安心してろすべからぬ消さないぞ

愉快な奴め

まだそんなものか気にしておったのか

あつあつ服があつ

あつあつ!!



そして我がこの服を脱がせてこの世に残してあげよう

さて腕を拘束して起こしてやる

少しだけな

ああアあ!!

それっっ♪

ふふっ
勢い余って
皮膚が剥が
れまくって
しまっただ
け

痛いッ!
か皮が
剥がれて
るうう

ハッ
ッ

焼ける痛みとは
また違った
苦しさがあ
ってさぞ面
白かろう?

もっと
剥がして
しまおう

ウキウキッ!!



ちやんと
見えるよう
に
手伝って
あげるよ♪

りはっり、
リルツ……!?



自分が
どうなってるか
もっとちゃんと
見たいよね?



あはっ
ルちゃん
真つ赤に
なっちゃった

びゅん
びゅん
びゅん



どお? 神様に
可愛された身体は
可愛いでしょ?

嫌アああ!!

ヒイヒイツ!!



魔法で鏡を
作り上げて

?!



アハハッ
面白いなあ
計らいだなあ

おっつ
おエエ!
中身を焼くの
もつと楽しくなる

ああっ
お喜び
いただけ
て
幸せです

これ以上
イヤあ
あは

もう見
たくない
やめてよ
おお



ま、遠慮せず
に
最期まで
楽しむとい
い

はっ
はっ
はっ



やめてだ
と?
ククッ

大親友
からの
計らいを
無碍に
するな

そうだよ
悲しいな
あ



自分側
の内
焼
痛
を
いら
く

あ……？

あああッ!!

腸の感触は
いいものだなあ

おおい体温が
伝わってくる

お腹の中
入ってるうう

なっ
撫でないでええ

ふふ♪
苦しうに
脈打ってるぞ

そら
弦を奏でるように
撫でてやろう

気持ち悪っ……
おこっアッあ!!

アアああ!!

一撫でするたびに
震えてまあ……

さぞ苦しいの
だろうなあ

苦しいのおお！
こっこんな感触
知りたくないいい！！

離してええ！！

知りたくなくても
我が教えてやると
言っておるのだ

ハハハッ
上から下から
お漏らしから

シラウウ
ぐんぐん！！

苦しい
痛い
苦しい
痛い
苦しい
痛い

お願いもうイヤ
もうイヤもう無理
もう耐えられない
嫌嫌イヤいや嫌
いやいやイヤあああ



そうは
させんぞ



.....

錯乱して
逃れようと
するなんて
小狡いことを.....



だが

おーッ!?



とっつても
愛おしいぞ

人から
かけ離れていく
その姿

お前が
生きるための
機能たちがあ
らなくていい
なんてない
あ



ンツツツツ

カッ
ツツ

ロツ

フツ
んんん

カッ
ツツ
ツツ



口も喉も
その奥も
余さず
焼いてやる

身体の芯が
焼けるつづつ!!

いい息が
上手に
できな...

ンニン!!
つづつ!!

フーッ
フーッ



そう！

このおかげでも
脚が砕かれても
腸を焦がされても
絶えが来ないよう
な気がしている



—なあ
覚えてるか

お前には今
魔法が
掛けられて
いると



意識を失いかけた
ところで強制的に
覚醒させる作用と

その覚醒を
保つため
ある程度の
緩和する
緩和する
りわさ
成り立つ
ての



さて、私の
可愛い贄よ



ククク

まあ仕組みは
こういうことだ



これを解いたら
一体どうなるん
だろうな？



—ま、さか

っうっ！？

ッ……！

喉と舌を
焼かれては
口も利けないか

ククッ
まあ私の
憶測では



想像するだけで
震えるだろう？



さあメリル
この魔法を
解いておやり



今まで受けた
全ての痛みを

まとめて

一度に

ありのままに
受け止めること
になるだろうなあ



ギョ……



—さよなら
ルちゃん♪



さあ

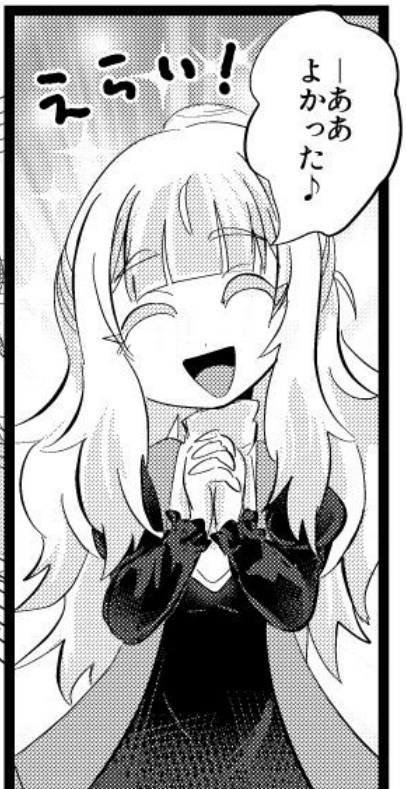
至上の痛みを
味わいながら
くわいがい

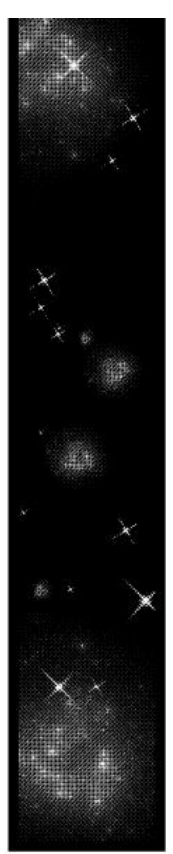
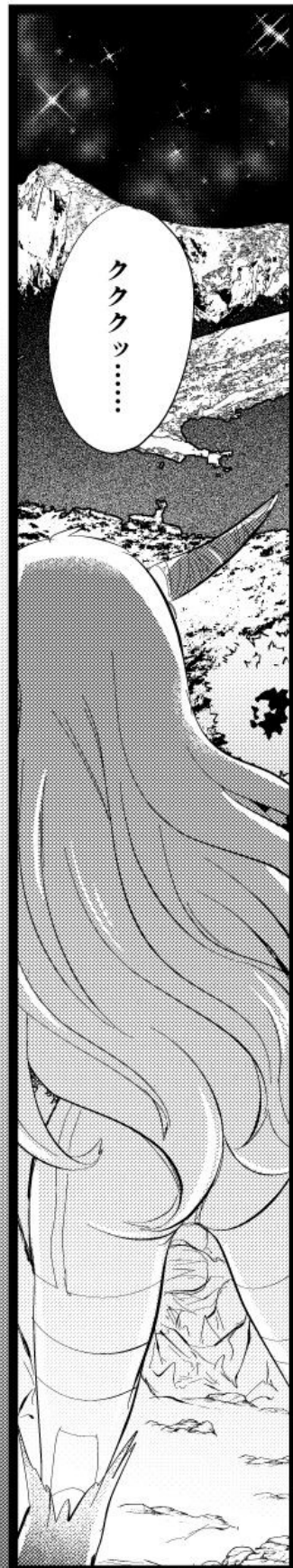
愛しい子

我の火に飲まれる
幸福に包まれるよ
お前は美しいよ

さあ、その身を
薪として
お眠りの中
で







あとがき

こんにちは、KOALAです。

因習の村っていいですね。
ホラーやミステリーの定番でエモの宝庫。
謎の神様に捧げる変な儀式とかときめきがありますね。
そんなわけで今回はそんな萌えの発露と黒白目と欠損と
いつもの火傷萌えのよくばりセットのつもりで描きました。
これを読んでくれた方が「なんだかお得〜」って
気持ちになってもらえたら幸いです(?)
あとこの子好きだな〜とか、こういう展開好きだな〜と
思ってもらえたら超嬉しいです。

いつも支援してくれる方々、手にとってくれた方々、
本の完成を応援していただいた方々、
本当にありがとうございました！みんな大好きです！

奥付

発行日:2019年12月30日
発行者:ねじやのひと(KOALA)
印刷所:ホープツーワン様
連絡先:njy@272.moo.jp

Website:<http://272.moo.jp/>
Pixiv:372173 Twitter:272njy

この作品には火炙り、炭化、
四肢欠損などの暴力的な表現が
含まれていません。

ねじやのひと
2019/12/30